

## 令和4年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(共和地区)

開催日時	令和4年10月26日(水)午後7時から午後9時
場所	共和トレーニングセンター
町民参加者	24人(40代以下5人、50代1人、60代以上18人)
町出席者	町長、教育長、参事兼企画総務課長、地域防災課長、環境課長、農林課長、商工観光課長、新東名対策室長、事務局3人

### 出席者からの主な意見や提案

#### 《テーマ：ハイキングコース等道路沿いのナラ枯れ対策について》

○ナラ枯れは、神奈川県全域、川崎や横浜にも広がっている。三方を山に囲まれたこの山北町では、見ればすぐにナラ枯れの木が散見できるような状況である。ナラ枯れによって枯れた木は朽ちて土に還ればいいが、道路沿いでは台風や豪雨によって枝が落ちてしまっており、すでに今年に入って3~4回落ちた枝を拾っている。地域住民の安心安全、そして未来に向けての憂いを少しでも軽減するため、まずは町道沿いのナラ枯れの木だけで構わないので、伐採していただきたい。また、ハイキングコースも同じよう大変な状況になっている。これを一度に全部切るとするのは、予算の問題などもあると重々承知しているので、一つ提案をさせてもらいたい。例えば地域の皆さんにしっかりと見える化を図っていくために、地域住民の方と町道沿いの視察をして、どの木から切っていくかというのを共に決めていくのはどうか。災害時に医療現場で使われるトリアージのようなシステムを使って、赤いテープは半年以内に伐採する、黄色いテープは1年半以内に伐採する、青いテープは3年以内に伐採する、というような見える化を図ることによって、地域の住民は少なからず未来に向けて安心感が増すのではないか。そしてこの問題は共和地区だけではなく、三保や清水、平山、高松といった山間地域全体の問題であると私は考えている。ぜひこれは早い段階でお願いしたい。そしてこの効果については、地域の皆さんの安心安全、生命財産を守るとともに、ハイカーのような外から来る観光客の皆さんの安全を守るという面でも必要なことだと思う。この県西地域で一番山を抱えている山北町がナラ枯れの対策をすることによって、同じ悩みを持つ市町村、そして近隣の市町村へもいい刺激にもなり、県に対してしっかりとしたプレッシャーが与えられると思うので、ぜひ前向きにご検討いただきたい。

○ナラ枯れは、静岡県小山町で見つかったからすごいスピードで広がった。被害木も、共和地区では去年は数本程度だったが、今年はすごい本数である。共和地区としては、ナラ枯れによって課題を抱えてしまったという現状である。この問題をどこから議論するのかというのは相当難しいと思うが、難しいからといって放っておくわけにもいかない。共和地区ではクヌギやコナラを植えているが、今後の植林については、これから山

北町の大きな課題になると思う。どのような展開を見越して植林してくのか。針葉樹よりは広葉樹を選び、混交林を作りながら健全な山にしていく山作りをしていくと思うが、その山がナラ枯れにより全滅するような状況になったことを考えると、植林の仕方をいろいろな角度から町も研究してもらいたい。山北町は9割が山で、伐期が来ている木を植え替えなければならない状況があるが、実際はやっていない。いつかはやらなければいけない時期が来ると思うので、そのときにどのような植林の体系を作っていくのかということが、これからは非常に重要な課題になると思うので、研究してもらいたい。川崎交流事業では「良い水を送るには良い山を作らなければいけない」というような内容を子どもたちにも教えているが、将来災害に結びついたときにどうしようかという視点もとり入れた勉強をしてもらえそうな山作りが必要と考えるので、ぜひ検討をお願いしたい。

- ナラ枯れは太い木に多く、細い木にはない。高齢の木に多い。木が太くなりすぎないうちに利用方法を考えることも必要だと思うが、何年以上の木に虫がつくのか、そういったデータなどがあれば教えてもらいたい。
- 現状、共和地区の中でも、大きい木でも枯れていなかったり、細い木が枯れていたりする場所がある。ナラ枯れになると根まで枯れてしまう。クヌギやコナラは伐採しても根が残っているので災害に強いといわれているが、それがナラ枯れで枯れてしまう前に、生きているうちに伐採した方がいいと思う。そういった具体的なことを町民に普及啓発をするのはどうか。
- ナラ枯れは全国的な問題だと思う。県や国で使えるお金はないのか。旧共和小学校下の木は電線にかかっているが、そういったものは東京電力のお金を使えないのか。また、先ほど木を切るのに1本平均20万円と言われていたが、処理にはどのぐらいのお金がかかっているのか。薪やしいたけのホダ木にするのは問題ないという話だったので、そのような利用がされているのか。また、資料内に私達ができる対策としてトラップ（罠）が書いてあるが、この効果などはどうなのか。こういったことをやったらどうなのか、ということを知りたい。
- ナラ枯れ対策については人的被害への対応を最優先すると話があったが、やはり人や車が通る道について、危険性の高いところを精査してそういった場所から進めていただきたい。また、ハイキング道については実際に我々が巡視をするとだいぶ目につくところがある。頼朝桜周辺など、ハイキングに直接関係するところもある。そういった場所も把握しつつ、対策として、そこを通る人に告知などの対策を考えていただきたい。

## 《テーマ ②ヤマビル対策について》

○今年も全国的にもヤマビルが多い。当初、三保の方にヤマビルがいるということで我々も他人事に思っていたが、1年半か2年であつという間にこの共和地区全域に広がってしまった。いろいろと調べてみたが、1匹のヤマビルは10個卵を産む。1個の卵から10匹が生まれるので、1年間で100匹生まれるという計算になり、2年目では100匹×100で1万匹。さらには、ヤマビルの寿命は3年から5年なので、4年で1億匹増える計算になる。今では庭を歩くこともなかなかできず、畑に行くにも相当な対策をしなければならない状況である。こうなるとヤマビル被害のため山に行けない、畑に行けなくなり、地域がどんどん衰退してしまう。以前、対策実行委員会が大井町、松田町、山北町の3町で作られたと聞いているが、こういった活動がされているのか。また、南足柄市もヤマビル被害が多くなってきたようだが、南足柄市の状況はどうなっているか。もう少ししたら山北全体にヤマビルが広がってしまうと思う。ハイカーがヤマビルを運んできて、さくらの湯でもハイカーが入浴の際に吸血被害にあっていることに気づくことが多いようだ。やはり町全体で対策をとっていかなければならない。3つの町が組織を立ち上げたので、それをさらに広げ、各連合自治会で実行委員会などを作りながら、全体で取り組まなければヤマビルはいなくなる。自治会単位の組織の立ち上げなど、町全体の取り組みについてはどうか。

○ヤマビルはシカについて移動するという話を聞くが、私はヤマビルがシカについているのを見たことがない。シカの肉をヤマビルがいる2か所に置き、観察していくとヤマビルが逃げていく。冷たい肉なので体温に反応しなかったのかもしれないが、そんな実験をしたのでお伝えする。

## 《テーマ その他》

○昨年の6月だったと記憶しているが、民間会社が都夫良野事業用地を活用してグランピング施設を作りたいという計画について、住民を集めて意見交換会を実施したと思う。当時、会社側は今年の4月には早ければオープンさせたいということをも明言されていたが、現在は工事着手の様子も全く見られないので、現在の進捗状況について伺いたい。

○共和地域では福祉バスが走っており、運転手さんもこの場にもたくさんいる。地域全体が高齢化していく中で運転手不足の問題がある。運営協議会でも検討されていると思うが、今後長いスパンで考えたときに、10年後には運転手不足というのは当然課題になってくると思う。若い移住者もいるが、人の命を乗せて車を運転するのはちょっとリスクが高いと思い私は敬遠している。地域の交通について、三保や清水ではデマンドバスの実証実験もされているが、町行政として今後の地域交通についてはどのような考えを持っているのか。

- 来年、「山北のお峰入り」を実施予定である。ユネスコ世界遺産への登録が決まればということで、1年ずらして来年の10月8日に実施するということが計画をしているが、世界遺産に登録されたら、たくさんのお客さんが山北に来ると思う。多くのお客さんが来た場合にどう対処するのか、やり方そのものも変えていかないとお客さんにご迷惑をかけてしまうと思う。町や水源地域の皆さんを含めてお峰入りを成功させて、来た人に喜んでいただけるようにしたいと思うので、ご支援をいただければありがたい。
  
- 町長選挙の際のパンフレットに、「若者や女性の起業支援」と書かれていたが、具体的にどういうことを考えてるのか。また、森林という言葉がよく出てきていたが、具体的に森林でどういうことをやりたいのか、何かビジョンがあれば教えてもらいたい。
  
- ハイキングコースの地藏岩コースを通過して下りてきた先、鍛冶屋敷へ出てから駅まで舗装道路が非常に長いということで、別のルート設定の話が出た。町職員にも、そのルートを見てもらい検討をしてもらっていると思うが、その後どうなっているのか伺いたい。